

# 九州のなかま

2010 - 7

秋闘情報: NO. 8

発行日 : 2010年12月7日(火)

発行者 : 生協労連 九州地連

## 九州地連 パート部会交流会を開催しました

### 「生活協同組合について考える」～生協ってなあに? 展望を持って働こう～

12月4日(土)、どこの生協も経営が厳しいなか、見失いがちになっている「生協とは...」を学習し、生協の本来あるべき姿を確認することを目的にパート部会交流会を開催、会場のエフコープ篠栗センターには8単組1協議会、45名のなかまが集まりました。

午前中はコープかごしま顧問(コープ九州事業連合前理事長)の坂元義範氏から講演をいただき、1980年のICAモスクワ大会での「レイドロウ報告」や、ロッジデールの話をとおして、生活協同組合の成り立ちや存在意義、現状に対する問題認識をわかりやすくお話いただきました。そのなかで「生協の展望はそこで働く職員にかかっている」「組合員が生協に接するのは1日のうち数分だが、職員は8時間過ごしている」「組合員にとっては、現場が生協」「生協で働く職員が生協らしさを知ることが大切」というお話は多くの参加者の共感をよんでいました。午後からは「店舗」「共同購入」「本部」「大学」で働く仲間に分かれて、午前中の講演を聞いての感想や職場の現状について交流をおこない、参加した仲間が元気になることができる有意義な交流会でした。



坂元義範さんの講演

店舗のなかま

共同購入のなかま



大学のなかま



生協のはじまり、ありがたについてよく理解できた。パート職員への教育がおこなわれていない。

今の生協は作業が一番。利益ばかりを追求しているのでは？



本部のなかま



初歩的なことがわからないので処理のしかたがわからない。

現場の状況を組合員の立場にたって、正規を含めてしっかり話し合っていきたい

参加者のみなさん、おつかれさまでした。1月の鹿児島での春闘組合学校、5月の宮崎での平和交流会へも多くのなかまの皆さんの参加をお待ちしています。

お願い: 2010年秋闘関連の取組み 他の情報を地連まで FAX: 092-947-9193